

[講演会抄録]

2011年度連続研究講座： 超少子高齢化社会ニッポン：私たちはいかに生きるか 第1回「特別講演のオリエンテーション」

2011年4月14日

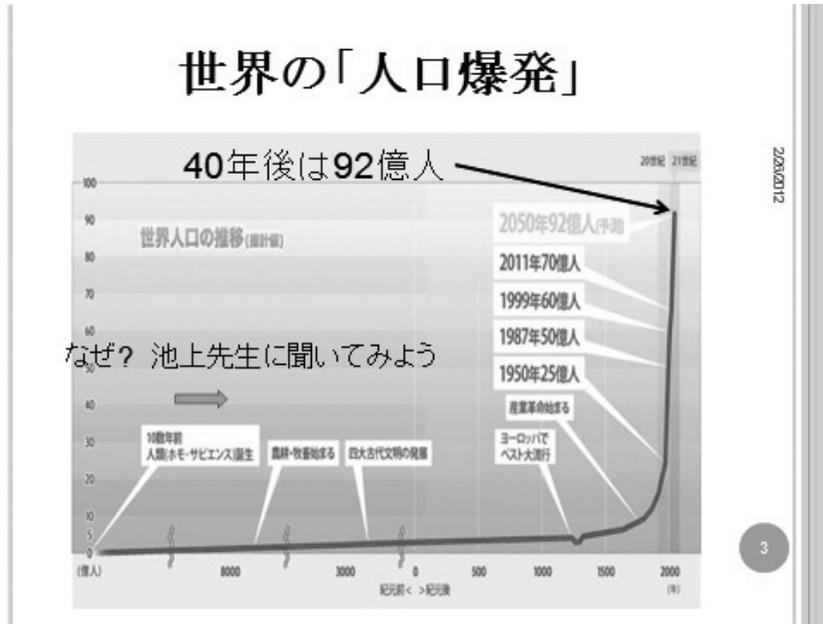
滝澤 三郎（本学国際社会学部 教授）

今日の話は、人口問題についての現代史研究所の連続講演のイントロダクションです。これから日本の人口がどんどん減っていきますが、この連続講演では、どうしてそうなるのか、この後どうなるのか、私たちの生き方にどんな影響があるのかを考えます。

連続講演のゲストスピーカーは5人です。5月5日の子どもの日の最初の講師は池上清子さん、国連人口基金（UNFPA）という国際機関の東京事務所長です。母親や子供の健康などについてテレビなどにも良く出ています。2番目のゲストの猪口邦子先生は、国会議員で、以前には少子化・男女共同参画担当大臣をしていました。女性が子供を産まない原因や、それに対する対策などについて話をしてくれます。3番目の講師は国立社会保障・人口問題研究所の石井先生です。石井先生は、去年に日本経済新聞に日本の人口問題について興味深い論文を約20回の連載で書きました。今日の僕の話もその論文を参考にしています。

以上3人が前期のゲストスピーカーですが、この連続講演は後期も続きます。少子化が進んで人口が減る日本では、もっと外国人・移民を入れるべきだ、という考え方が出てきますが、移民問題の専門家である名城大学の近藤先生に「移民は日本を救うのか、それとも破壊するのか」という題でお話をしてもらいます。また日本の人口が減って小さな国になった時、アジアの中で日本はどのような立ち位置にいるんだ

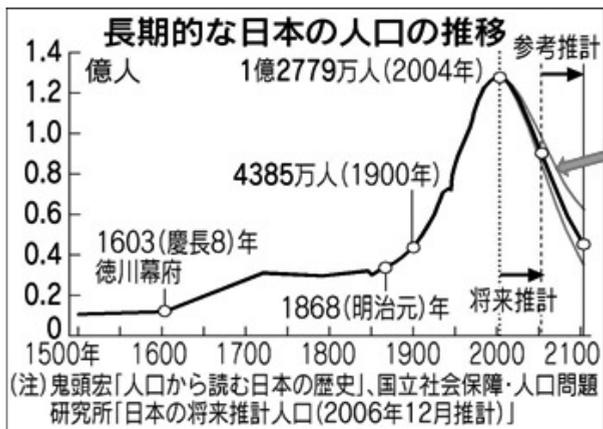
ろうということについて、早稲田大学の天見先生にお話ししてもらいます。



さて、僕の話に移ります。上の図は、世界の人口の推移です。20世紀になってから人口が爆発的に増えて、今は70億人、それがみなさんが60歳になる頃には92億人です。あと40年間で22億人も増えます。まさに人口爆発です。

世界では人口爆発があるけれど、次のページの図にあるように日本では逆に人口がどんどん減っていきます。2005年に日本の人口はピークを迎えました。この先どんどん減って、皆さんが60歳になる頃には9000万人を割り、今よりも3500万人ほど減ります。2100年になると、5000万人を下回ります。200年後には日本人は数十万になってしまって、最近話題の竹島に全員住めるくらいになるかもしれない。

日本の急激な人口減少・高齢化



四十年後は九千万人

2012/01/20

4

人口構成は? → <http://www.ipss.go.jp/>

問題はただ人口が減るだけじゃなくて、老人が増えて、若い働く人の数が減ってしまうことです。今は3人くらいの働く人が1人のお年寄りを支えています、みなさんが60歳くらいになったら、働く人1人が1人のお年寄りを支えるということになります。自分の生活を支えるだけでも大変なのにもう1人お年寄りの面倒も見なくちゃいけない時代が来ます。

次ページの表はショッキングです。皆さんはいつか結婚しようと思っているでしょうけれど、みなさんが60歳になった時、統計的には4人に1人は独身です。「結婚率」は約75%で、最近の大学生の就職率と同じぐらいです。さらに、子どもが一人もいない人が37%、孫が全然いない人がなんと半分もいます。皆さんの世代の平均寿命は90歳で、100歳以上生きる人も18%、5人に1人います。100歳になって子ども

20代の女性の4人に一人は生涯独身

女性の世代別ライフコース

世代 生まれ年 (年齢)	長寿化		非婚化・少子化		
	平均 寿命 (年)	百寿 割合 (%)	生涯 未婚率 (%)	無子 割合 (%)	無孫 割合 (%)
1960年 (50歳)	86.1	16.5	9.3 (12.9)	17.5 (20.8)	25.6
1980年 (30歳)	89.4	18.0	22.6 (23.6)	35.5 (36.4)	48.1
1990年 (20歳)	89.8	18.1	23.5 (24.3)	37.4 (38.1)	50.2

(注)世代の年齢は2010年誕生日時点。百寿割合は寿命が100歳以上の人の割合。生涯未婚率、無子割合は50歳時点の数値。カッコ内は死亡者も分母に含めた数値

2006/01/12

5

も孫もいないってちょっとさびしいですね。そして、以上の推計は既に決まっています「既定の未来」です。人口の動向というのは急には変わらないからです。

人口は減る、老人は増える、年金は減り、税金や社会保障料は上がる「3D日本」です。映画の3Dじゃなくて、Depression、Deficit、Debtの3Dです。人口がどんどん減るから経済は伸びない。この20年間くらい不況だ、言われているけど、この先は人口が減ってゆくから経済規模が小さくなり、経済成長率はマイナスになる可能性があります。「今年の経済減少率は1%」とか。若者の就職難は今後も続きます。

経済が小さくなるから国の税金収入は減ります。他方で老人が増えるから医療費や年金支払いが増えて、国の財政は赤字となって借金が増える。最近の東北大震災の復興費用が何十兆円かになるから赤字と

人口 ↘ 老人 ↗ 年金 ↘ 税金 ↗

3Dニッポン：急速な少子高齢化の進行が50年以上続く

- **Deflation:** 労働人口の減少が加速し経済は成長しない
 - 「景気回復」はなく、若者の失業率は高止まり
 - **Deficit:** 税収は減少する。
 - **Debt:** 国債残高はさらに増え、世界記録を毎年更新
 - 医療費は増え年金は減り高負担・低社会保障社会に
- 地方の「崩壊」！
 - 2000年から2005年の5年間で地方の人口は1000万人も減少し、それは今後も続く
 - 大都市への人口移動が続くが、都市人口もいずれは高齢化し、減少する

借金はさらに増えます。今でも日本人1人当たりの国の借金が900万円くらいあって世界一ですが、もっと増えるでしょう。

でもこのままでは国が確実に破産してしまうから、税金を上げてかつ年金を減らすことにならざるを得ない。皆さん60歳になった頃には所得税が4割、消費税が3割とかいうことになっている可能性があります。

悲しいことに多くの地方が崩壊してしまうかもしれません。今だって地方に行くとい人がいないところが多いし、いても老人だけです。子どもの泣き声はもう何十年も聞いていないというのが普通になる。既に2000年から2005年までの5年間で地方の人口が1000万人も減りました。田舎がなくなる、故郷がなくなる時代がやがて来ます。

とても寂しい話ですが、そもそもどうして日本の人口が減るのか。

第一の原因は皆さんにも関係しています。非婚率の上昇です。結婚しない人、結婚できない人が増えているのです。結婚したくないというグループと、結婚したいけどできないというグループが大きくなってきます。皆さんのうちの四人に一人がこのどちらかに入ります。

どうして日本の人口が減るの？

1. 非婚率の上昇

- 結婚しない若者(女性)が増えている
- 結婚できない若者(女性)も増えている
- なぜ？

2. 出生率の低下

- 結婚しても子供を生まない女性が増えている
- 結婚しても子供を生めない女性が増えている
- 「1人の女性が生涯に産む子供の数」が2人を下回ると人口は低下するが、日本では1.2人前後だけ
- なぜ？ 子供を産んでも育てていけない社会....

第二の原因は、出生率の低下。結婚しても子どもを産まない、産みたいけれどいろいろな事情から産めないということです。仕事を続けたいから子供を産みたくないということもあるけれども、産みたくても経済的に無理ということもある。今、子どもを産むために入院するだけで80万円もかかります。子ども産んだら、保育所がないから仕事を辞めざるを得ないということもある。また、教育費が高い。ずっと私立で大学まで出ると一人2000万円ぐらいかかります。二人いたら4000万円で、子どもを二人以上産むのは経済的に無理です。

ところで1人の女性がパートナーの男性と一緒に生涯に産む子どもの数が2人以下になると、当然人口は減ってしまいます。将来に日本の女性が生むと予想される子どもの数は平均で1.35前後ですから、確実に日本の人口は減って行きます。子どもを安心して産めない環境があるというのが基本的な理由です。これについては、猪口先生が詳しく話してくれます。

人口減の第三の原因は、日本は移民（外国人労働者）の受け入れをして来なかったことです。外国人が来ちゃ嫌だ、ということで日本では移民を入れなかった。フランスとか、アメリカ、オーストラリアなど先進国でも人口が毎年増えている国がありますが、その主な原因は移民を入れているためです。日本では、移民を受け入れるかどうかという議論がもう20年間もされていますが、そんなことをしている間にむしろ移民の方が日本に来てくれないという状態になってしまった。

日本は、紛争なんかを逃れてくる難民ですら受け入れをほとんどしなくて、国際社会からは「難民鎖国」と批判されています。日本人は、「日本は素晴らしい国だから、移民や難民を入れますと言うと、何百万人も来てたいへんだ」と思っているけれど、実はそうじゃありません。むしろ「来てください」って言わなきゃ来てくれない時代になってしまっている。「外国人を入れるか、入れないか」じゃなくて、「いかにしたら外国人に来てもらえるか」と問うべき時代になっているのです。

というのも、日本は外国人にとって働くのに魅力がない国になっているからです。「移民のジャパンパッシング」、つまり来てほしい外国人が日本をパスして他に行ってしまうということが既に起こっています。次の表は「高度人材から見た労働力市場の魅力度ランキング」という表ですが、大学教育を受け、英語もできるコンピューターの専門家とか、そういう技能ある外国人が働きたい国のランキングをつけると、日本は42番目です。日本に行って働きたいという「高度人材」の外国

日本の労働市場の魅力度

高度人材から見た労働市場の 魅力度ランキング

1位	スイス	9.12
2位	シンガポール	8.13
3位	米 国	8.08
4位	香 港	7.76
5位	ルクセンブルク	7.40
6位	カタール	7.40
7位	オーストラリア	7.40
8位	英 国	7.15
9位	カナダ	7.12
10位	カザフスタン	6.91
19位	中 国	5.83
33位	韓 国	4.58
42位	日 本	4.10

(出所) IMDの「世界競争力年鑑2010」。各国の企業経営者に、労使関係や生活の質などについてアンケートして、10段階評価している

人がすごく少ないことが分かります。一番人気が高いのがスイスです。シンガポール、アメリカ、香港、ルクセンブルク、オーストラリアが日本より人気が高いのは何となくわかるけれど、中国や独裁国家カザフスタンよりも魅力がないというのは辛いですね。中東のカタールも日本より人気がある。辛いけれども、これが外から見た日本のイメージで、「高度人材をめぐる国際競争力」で日本はすごく弱いことがわかります。

僕も外国の国際機関で長年働いてきたので分かります。外国人職員に日本に駐在したいかと尋ねると「うーん」と考え込んでしまう。例えば僕のいたUNHCRの駐日代表のポストは任期が5年で給料も高く良いポストですから、外国人の間で人気があってもいいはずですが、でも実際にはあまり人気がなく、来た人も短期で辞めてしまったりする。

なぜ人気がないかというと、日本語は難しいし、アパートは高い上に狭いし、子供のための英語の学校は少ないなどの問題があるからです。欧米の方が暮らしやすく英語も通じ、人気があるのです。

僕の心配は、外国人が日本に来てくれるかどうかということと同時に、3Dニッポンを嫌って、みなさんのように日本の将来を担う若い人が外国に行っちゃうことです。仕事が沢山ある上海に行って働こうとかで、「日本からの移民」が増えるかもしれない。そうになると、日本の人口がさらに減り、悪循環が始まります。

グローバルゼーションについて

- グローバルゼーションは「ヒト、モノ、カネ、情報」が容易に国境を越えて移動すること
- グローバルゼーションを生かせなかった日本：
 - カネ：1980年代の「バブル」のころ、有り余ったカネで日本は海外での不動産買いなどで資源を浪費し、国内の社会インフラを作らなかったため、低い住宅水準や不十分な社会保障だけが残った
 - ヒト：日本は「外人」を嫌って移民開国を避け、今では移民は日本を魅力ある国とは見なくなっていて、日本は「高度人材をめぐる国際競争」で敗北
- 国際政治の面でも地位が低下
 - 40年後の日本の地位はさらに低下。

2012/07

9

この授業はグローバルゼーションについてなので、それについても触れましょう。グローバルゼーションには「光の部分」と「影の部分」があるけれど、日本はその「光の部分」をきちんと利用できなかったのです。例えば、グローバルゼーションが始まった1980年代、日本は

景気が良くすぐお金がありました。国内でもフェラーリなどの高級車がごろごろしていた。有り余るお金で何をしたかという、ハワイの別荘やニューヨークの高価な高層ビルを買ったりした。もっと国内の社会的インフラを変えればよかった。日本に帰って来て一番醜いと感じるのは道路際の電柱の列と電線の波です。あの空を覆う電線網は麻布の高級住宅街にもある。なぜ地中化をしなかったのか。

ほかにも保育園など、子どもを安心して育てられる施設も充実せず、若いお母さんが困っている。年金の積み立てもしていないから社会保障制度も崩壊寸前で皆が不安感を抱えている。経済成長が止まった今では社会インフラを拡充しようとしてもお金がありません。せっかく苦勞して貯めたお金を無駄なことに使ってしまったのです。

もう1つグローバル化をを活かせなかったのは、「移民開国」をしなかったことですが、これについては先ほど述べました。とまれ、日本はグローバル化の波に賢く乗れなかったというのが僕の考えです。

こうなってくると、当然外からの日本に対する全体的評価は下がります。最近の日本のアジアにおける立場は弱くなっています。尖閣諸島事件の後の中国の日本に対する態度にそれが現れています。この調子だと40年後には国際政治の面で日本の地位は大きく低下しているでしょう。この点については後期に天児先生にお話をしてもらいます。

こんな風に、君たちの将来はお先真っ暗に見えてかわいそうです。じゃあどうすればいいのか。1つは、「人生はこんなもの」と若くしてあきらめちゃう。あきらめて低福祉・高負担の人生を生きることです。2つ目は、みなさんが自分でできることをすることです。まず就活をしっかりして仕事を見つけ、自分1人でも生きて行けるようにする。そして「婚活」もがんばって欲しい。4人のうち3人は結婚できるから「結婚率」は就職率と同じです。結婚できたら、がんばって子どもを産む。

1人では足りない。少なくとも2人で、できれば3人です。自分の食べる物も減らしても子どもを育てよう。日本の宝を育てよう。子どもが出来ても辞めないでワーキングマザーでがんばろう。「三食昼寝付き」の主婦という昔のモデルは忘れましょう。

じゃあ私はどうすればいいの？

1. 「人生はこんなもの」と(若くして)潔くあきらめる
 2. 連続講演のゲストスピーカー達に尋ねる
 3. 自分でできることをする:
 1. 就活頑張って、一人でも生きていけるようにする
 2. 婚活頑張って結婚する(確率は4分の3で就職率と同じ)
 3. 頑張って子どもを産む(2人、できれば3人)
 4. 子供ができて辞めず、ワーキングマザーになる
- パパ(彼氏)には定年後もしっかり働いてもらう
 - ロボットに頼る(ロボット看護師、ロボット先生など)
 - 移民を受け入れ、多文化共生社会に生きる

2012/07

11

それからお父さんをお願いして、定年後もしっかり働いてもらう。60歳で引退して盆栽なんかやってないで、70歳か80歳まで働いてもらって、労働力を補ってもらうのです。ロボットに頼る手もあります。看護ロボットとか。アメリカのある新聞が、日本人は外国人の看護婦さんに面倒見てもらうよりも、ロボットの方を好む、と書いていた。日本人はそこまで外国人嫌いなんだということだけれど、みなさんも外国人看護師よりロボットの方がいいのかな？僕らよりも「ロボット先生」の方がいいかな？

最後に、やっぱり移民受け入れをせざるを得ないでしょう。日本には外国籍の人が215万人いて、うち80万人くらいが外国人労働者だけけれど、この数を増やしていくということは避けられない。ならば覚悟を決めて、文化や習慣の異なる外国人とも何とか折り合いをつけて暮らしていく。違った文化と触れ合うことで私たちの文化も豊かにする。いわゆる「多文化共生」の社会で生きていけるように、気持ちの切り替えが必要です。

現代史研究所連続講演「超少子高齢化社会ニッポン：私たちはいかに生きるか」の狙いの一つは、そのような気持ちの切り替えを皆さんがしてくれることにあるのです。